

生源寺靖浩先生のご退職に寄せて



◆ 略 歴

- 昭和12年 兵庫県に生まれる
昭和38年 名古屋大学教育学部教育心理学科卒業
昭和39年 名古屋大学大学院教育学研究科
教育心理学専攻修士課程入学
昭和42年 名古屋大学大学院教育学研究科
教育心理学専攻修士課程修了
同 愛知県職員（心理専門職）
平成9年 江南女子短期大学幼児教育学科教授
(平成10年4月 大学名を愛知江南短期大学と改称)
(平成15年4月 学科名を現代幼児学科と改称)

◆ 学内における役職歴

- 平成11年4月—平成13年3月 生涯学習センター長
平成13年4月—平成18年3月 幼児教育学科長（平成15年4月から現代幼児学科長）
平成14年4月—至 現 在 学生相談室長
平成15年5月—平成19年5月 愛知江南学園評議員

◆ 研究分野

社会福祉事業論、児童臨床心理学、障害児保育論

◆ 学会・社会における活動

【所属学会】

東海相談学会

【社会における役職歴】

- 平成7年10月—至 現 在 東海相談学会評議員
平成12年6月—平成14年5月 江南市生涯学習基本計画懇話会座長
平成14年5月—平成14年6月 江南市生涯学習懇話会座長（江南市次世代育成支援活動計画推進会議座長）
平成16年2月—平成18年3月 江南市次世代育成支援活動計画策定協議会会長

平成18年4月	一至	現 在	江南市行政戦略推進懇話会委員
平成19年4月	一至	現 在	愛知県児童総合センター運営協議会委員長
平成19年4月	一至	現 在	春日井市障害児保育巡回指導者
平成19年4月	一至	現 在	岡崎市障害児保育研修指導者

◆ 受賞歴

平成19年4月 愛知江南学園理事長表彰（10年勤続者）受賞

研究業績一覧

【主な著書】

1. 生源寺、他共著：「保育研究法（保育叢書8）」福村出版 1982年
2. 生源寺、他共著：「ハンドブック教育・保育・福祉」北大路書房 1995年
3. 生源寺他：子どもからの伝言—児童相談の中で—、東京法律出版（1983）

【主な学術論文】

1. 生源寺：不幸の形態と社会的性格—社会心理的接近の試み—、愛知県立保育大学校研究紀要 **1**（1982）
2. 生源寺：子どもの集団の機能的側面に関する一考察、愛知県立保育大学校研究紀要 **2**（1983）
3. 生源寺：登校拒否児の教育相談、江南市教育委員会「登校拒否対策協議会事業報告」5-12（1993）
4. 生源寺：自立再考…私たちのとるべきスタンス、愛知県児童福祉施設長会機関紙「絆」**6**、5-10（1994）
5. 生源寺：実践カテゴリーの検討法、愛知県立保育大学校研究紀要 **14**、1-5（1995）
6. 生源寺：有機的な実践への土台—行動の理解から子どものイメージへ—、愛知県立保育大学校研究紀要 **15**（1996）
7. 生源寺：地域福祉ネットワークの臨床心理学的アプローチ（1）乳幼児への実践から—、愛知江南短期大学紀要 **28**、113 - 127（1999）

【その他】

1. 生源寺：障害児保育について、尾張保母研修会記録 1979年度版 尾張保母会編集（1980）
2. 生源寺：地域ネットワークにおける子どもと家族へのアプローチ、東海相談学会機関紙 1998年度版、1（1998）
3. 生源寺他：地域療育援助、東海相談学会機関紙 2006年度版、1（2006）

贈ることば

生源寺靖浩先生は、昭和38年3月名古屋大学教育学部教育心理学科を卒業後、同大学大学院教育学研究科（教育心理専攻）修士課程へ入学され、昭和42年3月にこれを修了後、愛知県職員（心理専門職）となり、平成9年4月に江南女子短期大学幼児教育学科教授として本学に赴任されました。それ以来今日まで、先生は生涯学習センター長、学科長、学生相談室長などの要職を歴任され、本学の運営に深くかかわってこられました。

平成11年4月から2年間は、生涯学習センター長として本学における生涯学習事業の拡充に努め、本学が地域における生涯学習の拠点として確立する上で大きな成果をあげられました。

平成13年4月から5年間は、幼児教育学科長（後に現代幼児学科長）としてもちまへの先見性や分析力をいかに発揮され、教育内容や学生指導の改善に成果をあげられました。特に、平成15年4月に学科名を幼児教育学科から現代幼児学科に改称するとともに、当該学科に幼児教育専攻と地域保育専攻とを設置して、社会のニーズに応えうる保育者養成を推進されましたが、文部科学省、厚生労働省との折衝を重ねて、本学科の特色を内外に示された功績は極めて大きなものでありました。

また、平成14年4月から6年間は、学生相談室長として、学業や生活上の問題に悩む多くの学生を支援してこられました。先生は、処遇困難学生の増加する中でこの問題に精力的に取り組まれ、学生支援体制の整備に尽力されましたが、ここで築きあげられたものは、これからの学生支援に大きな力を発揮するものと思っています。

平成16、17、18年度には、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に応募するための取りまとめ役として、提出資料の作成等に尽力されました。これらは残念ながら採択されるには至りませんでした。そのような活動を通して示された見識や分析力が評価され、同プログラム審査委員会の要請により平成17、18年度にペーパーフリーに就任され応募資料の審査に当たられました。

研究面では、「生活臨床」、「地域臨床」をキーワードにした児童発達支援の立場から、保育実践活動や地域支援活動のあり方をテーマとした多くの取り組みがあり、それらの成果は、「地域福祉ネットワークの臨床心理学的アプローチ（1）－乳幼児への実践から－」「有機的な実践への土台－行動の理解から子どものイメージへ」などの論文に収められ、保育園、乳児院、児童養護施設等の児童福祉施設における処遇改善、職員の資質向上及び地域支援活動を展開する児童福祉行政の推進に多大な影響を与えるところとなりました。

学生指導の面では、学生主体の教育を常に心がけておられ、学科に在籍する多様な学生、一人ひとりの学びにかかわる問題を、学生の目線で考え、学生の力量に合わせたアドバイスを
行っておられました。そのためアドバイスを受けた学生は、自分の課題やその解決の糸口の発
見を自分が行ったんだという達成感を感じることができ、ここに学生の学びの主体性が確立さ
れていたのではないかと思います。常日頃、先生は、主人公ではなく黒子に徹することの意義
を説いておられましたが、何を隠そう実は、この点は私が密かにお手本にさせていただいて
いたところでもありました。しかし、これは私にとっては大変難しいことであり、先生の足元にも
及びません。先生のお力の大きさを痛感しているところであります。

先生は、また、「優しさに裏打ちされた強さ」をおもちでした。学生や教職員の思いは、ど
のようなことであっても、それらを理解することに時間と労力を惜しまれませんでしたし、そ
の思いにとことん付き合っておられました。多忙なときなど、人は相手に寄り添うことが難し
くなりますが、先生は泰然としておられました。このような先生との対話により、私は自分を
振り返り、多くの気づきを得ることができました。私はこのようなこともあって、先生との出
会いを大変ありがたいことだと思っていますが、同じような経験をお持ちの方は多いのではな
いでしょうか。

先生が、これまで色々と本学の発展に尽くしてこられたこと、私達教職員に対して親切・ご
丁寧な指導をしていただいたことに対しまして、ここに改めてお礼を申し上げるとともに、今
後の学科の進展状況を是非おみまもりくださるようお願いいたします。

最後になりましたが、先生におかれましては、ご退職後はご健康で末永くご活躍されるよう
お祈り申し上げます。

(現代幼児学科長 松尾 昌之)